

「言い訳」

—初稿—

2025/7/24

さいの

〈人物表〉

川田 俊介 かわた しゅんすけ
(29)

元芸人で今はサラリーマン

猪島 佳織 いのしま かおり
(28)

俊介の元カノ

石垣 康太 いしがき こうた
(30)

俊介の元相方

田村 賢 たむら けん
(23)

石垣の今の相方

1. 俊介の職場オフィス・休憩室（夕方）

川田俊介（29）がタバコを吸いながら、退屈そうな顔でテレビのお笑い番組を見ている。

同僚 「川田くんさ、こういうの好きな人？」

俊介 「たまたま付いてるから、見てるだけです」

同僚 「あ、そう。いや、よく見てるからさ」

壁掛け時計が十七時になると同時、

俊介 「じゃ、お先します」

と、足早に立ち去る。

2. 花屋（夕方）

店員 「（赤いバラを手にとって）ご用途は、お祝い用ですか？」

俊介 「ええ、妻の誕生日なんです」

3. 百貨店の化粧品店（夕方）

俊介 「あの、『秋のうるおいコスメセット』っていうのは」

店員 「こちらでございます」

俊介 「（爽やかに）じゃあ、それ一つ」

店員 「ありがとうございます。お支払いは……」

俊介 「（カードを出して）一括で」

4. 駅前の交差点前（夕方）

赤信号のスクランブル交差点の前に、人だかり。

俊介 「（電話に）うん、買ったよ。もうすぐ帰るね。はい」

俊介、化粧品店やらケーキ屋の紙袋やらと、赤いバラの花束の入ったビニールを持って立っている。

腕時計を見て、満足げな表情。

信号が青に変わり、ゆっくり歩き出す。

男の声 「え、本当にダメ？ ねえ、お茶するだけじゃん」

声の方を振り向くと猪島佳織（28）がナンパ男に絡まれている。俊介、佳織とは気づかず足を止める。

男 「（ヘラヘラしながら）奢るってば」

と、佳織の腕をぐっと掴む。佳織、舌打ち。

俊介、行ってしまうのか悩んだ末、割って入る。

5.

喫茶店（夜）

俊介 「（笑顔で）どうもー、連れがお騒がせしてすみません」

男、舌打ち。そそくさとその場を去る。

佳織 「……ありがと」

俊介 「いえいえー。（佳織の方を向いて）げっ」

佳織、俊介の腕をぐっと掴む。赤信号。

佳織 「今、時間ある？」

俊介 「……少しなら」

俊介、チラッと腕時計を見る。佳織、沈黙を破って、

佳織 「っていうか、何その格好」

俊介 「え？」

スーツ姿に紙袋と花束の俊介。

佳織 「そもそも、なんでスーツ？」

俊介 「あー」

佳織 「もしかしてさ……」

俊介、逡巡の後、意を決して、

俊介 「実は俺さ、今、結婚して芸人は……」

佳織 「（目を見開いて）え？」

俊介 「……結婚、式の帰りなんだよね。芸人の先輩の」

と、咄嗟に結婚指輪を隠してポケットにしまう。

佳織 「……そうなの？」

俊介 「うん。これ（紙袋）引き出物で。花も貰っちゃってさ」

佳織 「（紙袋のロゴを見て）引き出物で、化粧品？」

俊介 「そういう業界の人なんだよね、お相手。元々メイクさん

だったらしくて」

佳織 「でもそれ、俊介使うの？」

俊介 「男だって、スキンケア大事だよ？」

佳織 「……ネクタイは？ 白じゃなくていいの？」

俊介 「金無くて。その、相変わらずで。ご祝儀も要らないって」

佳織 「……ふーん」

俊介 「うん」

佳織 「じゃあまだ芸人やってんだ」

俊介 「もちろん」

佳織 「この一年、都内の地下ライブ全部回って探したのに」

俊介 「全、部？」

佳織 「お笑いオタクの意地。一応、売れると思って付き合ってた訳だし。ねえ、あれからネタやってなかったの？」

俊介 「えっと、あれから別の事務所の養成所入ってさ、外のライブ、まだ出れない決まりなんだよね」

佳織 「（呆れて）また養成所通ってんの？」

俊介 「うん」

佳織 「なら出てくるわけないか」

俊介 「（ヘラヘラと）それは申し訳ない」

佳織 「……謝るなら、まずそこじゃないから」

俊介 「え？」

佳織 「私ヒモ彼氏に金貸したまま一年逃げられてたんですけど」「いや逃げてたとかでは。一応ちゃんと別れたつもりだし」

佳織 「逃げたでしょ？ 出張から帰ってきたら、もぬけの殻。夜逃げでしょ？」

俊介 「引越し業者が隣と間違ったみたいで……」

佳織 「（凄んで）そういう態度取っていいの」

俊介 「（潔く）ごめんなさい」

佳織、机を叩く。ビビる俊介。佳織、息を吐いて、

佳織 「今は返せないってことか」

俊介 「えーっと、いくらだったけ？」

佳織 「五十八万」

俊介、思わず目を逸らす。

佳織 「支払い能力無いんじゃないあ」

俊介 「（両手を合わせ）かたじけない」

佳織 「……もうお笑い辞めたのかと思ってた」

佳織、ため息のような安堵のような息。

佳織 「普通に働いてんのかなって。石垣も知らないって言うし」

俊介 「え？」

佳織 「（サラッと）石垣さ、今私と付き合ってたんだ」

俊介 「（少し落ち込んで）そう、なんだ」

佳織 「でもあんなにお笑い好きな俊介が、辞める訳ないよね」

俊介、腕時計をチラッと見る。

俊介 「ごめん。悪いけどさ、今日はこの辺で」
佳織、一枚の紙を机に置く。お笑いライブのチラシ。
俊介 「……？」

6.

地区センター・大ホール・楽屋前の廊下（夜）

数組のお笑い芸人がネタ合わせ中。
俊介、佳織に強引に引っ張られていて、
俊介 「こんなとこの見ても勉強なんないしさ、ごめんちょっと
やっぱ俺この辺で……」

佳織 「（指差して）あれ」

石垣康太（30）、相方・田村賢（23）とネタ合
わせ中。俊介、驚いて、咄嗟に物陰に身を隠す。

佳織 「石垣、今別の相方とやってんだ」

俊介 「……知らなかった」

佳織 「でも、あれでもう四人目」

俊介 「え？」

佳織 「なかなか上手くないみたいなんだよね」

石垣、大きな声で、

石垣 「夜中に犬の手術するバイト？」

田村 「いやあのね、ワンオペってさ、意味違うから」

俊介、石垣をじっと見て、

俊介 「……テンポ、悪いな」

佳織 「うん」

俊介 「ツッコミと声のバランス合ってないし」

佳織 「……俊介さ、どうにかしてくんない？」

7.

地区センター・大ホール・ロビー（夜）

佳織、帰ろうとする俊介を必死に食い止めていて、
佳織 「お願い。一回合わせるだけ。今の石垣見てらんないから」
俊介 「いやいや無理だって。ネタも知らないしさ」
佳織 「だいたい昔と一緒だから。石垣も俊介とやったら昔の感
じ思い出すかもしれないじゃん？」

俊介 「（腕時計を見て）……俺、時間ないんだよね？」

佳織 「……チャラにするから。五十八万」

俊介 「……マジ？」
佳織 「（マジな顔で）……マジ」
俊介 「でも、今更石垣に合わせる顔無いし……」

俊介の手には、化粧品店の紙袋。

8. 地区センター・男子トイレ（夜）

俊介、袖をまくり、鏡台に向かって何やらしている。

9.

地区センター・大ホール・楽屋前の廊下（夜）

佳織 「石垣、この人」

と、ネタ合わせしている石垣に呼びかける。

俊介、フェイスパックの上にアイライナーやリップでぐりぐりと目玉や口などを描いた装いで登場。

佳織 「こういう芸風の人の」

俊介 「（か細い裏声で）コスメ太夫でございます」

佳織 「……大丈夫、腕は私が保証する。一回ネタ合わせしてもらったらどうかかって。参考になると思うし」

石垣 「（戸惑いつつも、潔く）よろしくお願いします」

× × ×

佳織と田村の前に、並んで立つ石垣と俊介。

石垣 「昨日バイトの客に今日ワンオペかよって文句言われて」

俊介 「（か細い裏声で）あー大変だよな」

石垣、俊介のあまりの声の細さに戸惑う。

石垣 「……え、こんな夜中に今からこいつ手術すんのって。しかも犬の？ って思って」

俊介 「（か細い裏声で）ワンオペってそういう意味じゃ」

石垣 「……なんて？」

俊介、吹っ切れて、地声で、

俊介 「だから、ワンオペって、そういう意味じゃねえよ」

佳織、思わず笑みが溢れる。

石垣 「（俊介の声に気づいて）……え？」

俊介 「何だよ、何ボケっとしてんだよ。ワンオペってそういう意味じゃねえだろってんだよ」

石垣 「あ、え、ワンちゃんのおペ」

俊介 「ここ深夜の牛井屋だろうが」

石垣 「（ナースっぽく）先生、患者の命に昼も夜もありません」

俊介 「誰が先生だよ、このブス」

石垣 「え、メス？ 先生、ないんで包丁」

と、俊介を刺す。

俊介 「刺さってる刺さってる」

石垣 「先生すいません。ここ包丁しかなくて」

俊介 「だろうな。牛井屋だから」

佳織、声を上げて笑う。涙が出るくらい、笑いが止まらない。二人、思わず漫才を止めて、佳織を見る。

10.

地区センター・大ホール（夜）

大爆笑している観客たち。

石垣・田村 「どうも、ありがとうございましたー」

佳織、客席で拍手している。

11.

地区センター・大ホール・舞台袖（夜）

出番終わりの石垣、俊介を見つけて、

俊介 「お疲れ」

石垣 「……ありがとな、さっき」

俊介、ゆっくり頷く。顔はテカテカ。

石垣 「あのさ、俺今、佳織と……」

俊介 「知ってる。大丈夫。俺、今結婚してるし」

石垣 「そう、なんだ」

俊介 「あ」

と、ポケットから指輪を取り出してはめる。

石垣 「お笑い、まだやってたんだな」

俊介 「ううん。辞めた。今日で」

石垣 「え？」

俊介 「すげえ迷惑掛けたけどさ、今までありがとな。石垣」

石垣 「大丈夫。お前に頼らなくても売れてやるから」

俊介 「おう。じゃ、またな」

と、立ち去る。石垣、その背中を目で追う。

（おわり）